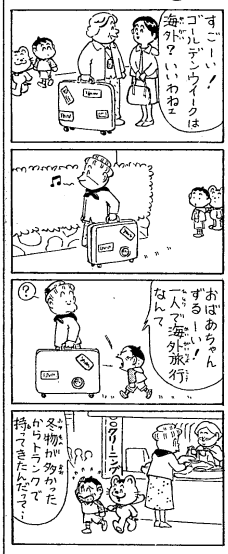
カンちゃん

フジヤマジョージ



「無事帰ってきて」

陸自12旅団イラク派遣

家族ら複雑な思い

国際貢献期待の声も

陸上自衛隊第一二旅団（司令部・榛東村）に二十八日、イラク復興支援特別措置法に基づく派遣命令が下った。以前から同旅団の派遣が濃厚とみられていたためか、関係者は比較的冷静に派遣命令を受け止めたようだ。しかし、派遣される隊員とその家族にとって安全面の不安は消えない。国際舞台での活躍を期待する一方で、現地の治安情勢や隊員の健康面を心配する声もあがっている。

第10次イラク復興支援群の中心部隊となる第12旅団司令部

自衛隊員の家族らでつくる全国自衛隊父兄会県支部連合会の新井和三会長は同日、テレビニュースで派遣を知った。「イラクの情勢を受け、政府の判断が気掛かりだった」と安堵の表情を見せた。

長男が同旅団に所属しているという勇性（63）は「これまでの派遣隊が無事だったから大丈夫だと思ったが、とうとう派遣命令が出たかと思った。健康に気を付け、国のために任務を達成して無事に帰ってきてほしい」と隊員の身を案じた。

県防衛協会（旧県自衛隊後援会）の町田錦一郎会長は同日午後、長谷部隆一郎旅団長から電話で派遣命令が出たことを聞いた。同協会は自衛隊の行部隊が中心になり、国際貢献できるのは名誉なこと。協会も支援するので頑張って活動し、無事に帰ってきてほしい」と活躍を祈った。

相馬原駐屯地がある榛東村では、真塩卓村長が「一人道支援のために活躍し、充実した任事をしてくれることを期待している。隊員の無事を祈っている」と語った。

寒暖差が厳しい中、体調に注意して元気で行ってきてほしい」と不安そうに話す。

洋一旅団長の遺骨が渡し役として活動している。

県警がGW総合交通対策

取り締まり強化 渋滞緩和に重点

県警は二十九日から五日までの大型連休交通取り締まりの強化や渋滞緩和に取り組む。

重点的に実施するのは①交通取り締まり強化②渋滞対策の推進③暴走、一般道でも速度超過したり、信号機を制御するなどして緩和を図る。暴走族につい

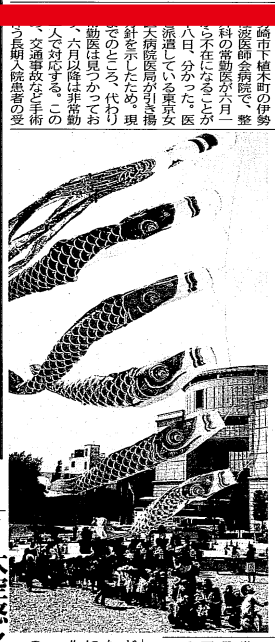
県警交通企画課は「連休で長距離運転する人も多いと思うが、旅行計画をしっかりと立て、ゆとりある運転をしてもらいたい」と事故防止を訴えている。

整形外科の常勤医不在

6月から 長期入院が不可能に

医師会病院

勢崎市医師会（桑原雄一会長）が運営する勢崎市植木町の伊勢崎医師会病院で、整形外科の常勤医が六月から不在になることが分かった。医師会病院は六月一日、分かった。医師会病院は、大病院医局が引き揚げ方針を示したため。現在のところ、代わり常勤医は見つかっておらず、六月以降は非常勤医が一人で対応する。この間、交通事故など手術が必要な長期入院患者の受け入れが不可能となるという。



同医師会によると、同病院整形外科の常勤医は二人で、外来と病棟を担当。臨床研修制度の影響で、四月末に一人が、五月末までにも一人が順次引き揚げることになったという。

六月以降は毎週火、水曜の二日間のみ非常勤医が対応する。整形外科の患者さんに迷惑をかけることはないと同医師会は説明している。

同病院には、小児科の常勤医四人についても十月から一人となる方針が磯部駅間を走行中、線路同医局から伝えられているという。

桑原会長は「三十四時間体制で対応する救急病院にとって、整形外科常勤医の不在は致命傷」とおり、小児科医の常勤医の確保を急いでいる。

病院整形外科の常勤医は、現在の入院患者五人については「大半が五月末までに退院できる予定で、残った場合には外科、内科の医師が対応するので一日平均の外来患者は四人前後になる」という。

現在の入院患者の救急時については、伊勢崎市民病院などが対応する。

人身事故で6本に遅れ

JR信越線 安中―磯部駅間

二十八日午後八時ごろ、JR信越線の普通電車が安中市安中の安中―磯部駅間を走行中、線路内にいた女性をはねた。

JR東日本高崎支社によると、女性の死亡が確認されたという事故で、高崎―横川駅間の全線で一時運転が見合わされ、上下六本に最長七十四分の遅れが出た。

大空悠々

前橋

「こどもの日」（五月五日）を前に、県庁毎年開催。園児や保護者ら五百人が集まった。

こいのぼり 園児ら掲揚

「こどもと、児童福祉週間（五月一日）に合わせて県民広場で二十八日、「こいのぼり掲揚のつどい」が行われ、園児たちが高さ十六メートルの柱にこいのぼりを掲げた。

このイベントは子供の成長と健康を祈ろうとの趣旨。

写真

▽春恒例の関東山野草展が二十八日、太田市金山町の大光院境内で始まり、スズランやサクラソウなど約四百種が展示されている。写真は五月五日まで。

▽山野草によって季節を感じてもらい、自然保護意識を持ってもらうのが目的。本県と埼玉、栃木県から十二の山野草愛好家団体が参加。八日三十五点が集まった。

▽会場には、白や黄、ピンクなど色とりどりの花が並び、来場者は花の名称を確認するなど、熱心に観賞している。三日午後、時からは、同会場で山野草の栽培教室が行われる予定。

時の話題

この印刷物の文章・写真等の著作権は上毛新聞社が保持しています。無断転載、複製及び頒布は禁止します。